≪展示解説シート≫

令和元年度夏季企画展

あわらの祭

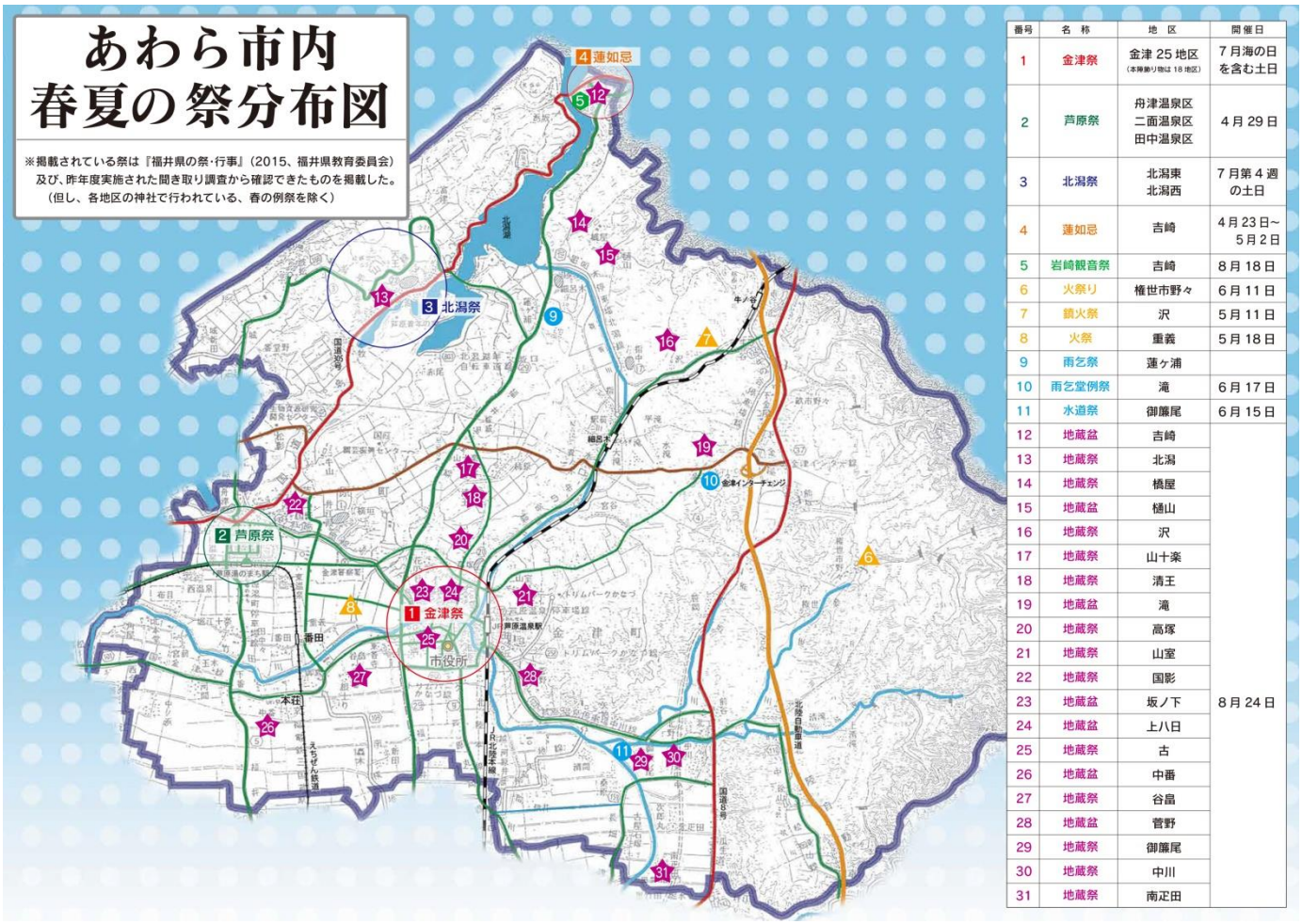
～春と夏～

あわら市郷土歴史資料館

30 年続いた平成が終わり、新しく令和の時代が始まりました。平成時代は社会の変化が大きく、地区を取巻く環境が大きく変った時代でした。

今回のテーマは祭ですが、近年の変化は激しく、担い手の高齢化や人数の不足により、5 年前に調査時には存続していた祭も、今年調査したときには無くなっていたものが多くありました。

ですが、それでも市内には多くの祭が存続しており、地区の繋がりの中心となっています。今回はそれら祭の中から春と夏に行われるものを紹介します。自分が住んでいる以外の地区の祭にも眼を向けていただけたら幸いです。



番号	名称	地区	開催日
1	金津祭	金津 25 地区 (本陣跡り地は 18 地区)	7 月海の日を含む土日
2	芦原祭	舟津温泉区 二面温泉区 田中温泉区	4 月 29 日
3	北潟祭	北潟東 北潟西	7 月第 4 週の土日
4	蓮如忌	吉崎	4 月 23 日～5 月 2 日
5	岩崎観音祭	吉崎	8 月 18 日
6	火祭り	権世市野々	6 月 11 日
7	鎮火祭	沢	5 月 11 日
8	火祭	重義	5 月 18 日
9	雨乞祭	蓮ヶ浦	
10	雨乞堂例祭	滝	6 月 17 日
11	水道祭	御簾尾	6 月 15 日
12	地蔵盆	吉崎	8 月 24 日
13	地蔵祭	北潟	
14	地蔵祭	橋屋	
15	地蔵盆	樋山	
16	地蔵祭	沢	
17	地蔵祭	山十楽	
18	地蔵祭	清王	
19	地蔵盆	滝	
20	地蔵祭	高塚	
21	地蔵祭	山室	
22	地蔵祭	国影	
23	地蔵盆	坂ノ下	
24	地蔵盆	上八日	
25	地蔵祭	古	
26	地蔵盆	中番	
27	地蔵祭	谷畠	
28	地蔵盆	菅野	
29	地蔵祭	御簾尾	
30	地蔵祭	中川	
31	地蔵祭	南正田	

【金津祭】

前日祭では金津神社の宮司による山車と神輿のお祓いを受けた後、地回りとして山車と前囃子、子供踊りを本番と同じ形で区民にお披露目します。

中日祭では以下のことが行われます。

① 金津神社の神社神輿の渡御が行われる。
② 金津地区を東部・西部・南部の 3 つのブロックに分け、それぞれから各 1 基、合計 3 基の山車が巡行される。
③ 神社神輿と山車は、各地区の本陣（18 ヶ所、山車は 16 ヶ所）を渡御及び巡行する。
④ 本陣においては、日用雑貨品等を使った飾り物を製作し、神社神輿と山車を迎える。
⑤ 本陣では宮司によるお払いと、山車について回る囃子として、曲太鼓と子供踊り等の奉納が行われる。

中日祭が祭のメインなら、後日祭は来訪した客の接待が主となり、家族で静かに祭りの余韻を楽しむ日となります。

各地区が神輿や山車をお迎えする本陣では、「本陣飾り物」が製作されます。日用品を使い、工夫を凝らした作り物は、祭に来る人々を楽しませています。

【あわら温泉春祭】

温泉三区（舟津、二面、田中）のお薬師さんの祭で、薬師の縁日である 5 月 8 日に行われていましたが、近年は 4 月 29 日に開催されています。

始まりは、国鉄三国線の開通を前にした、明治時代終わりから大正時代はじめのころで、三区・旅館・芸妓置屋・青年団を中心に多くの区民の参加もあり、「あわらの祭は、提灯祭」と近隣でいわれるほど、華麗な行事でした。

祭では神輿の渡御をはじめ、人形山車、花山車、太鼓山車など多彩な山が出ています。人形山車は三区のなかから交代で山番を務める区が受け持ち、飾られる人形は歴史上の人物や歌舞伎の世界から多く選ばれています。また、花山車（桜山車ともいう）を出すと、火事が無いといわれ、今でも火災よけにこの花（桜）を飾る家があります。そして、花山車の中では芸妓が華

やかなお囃子を奏で、あわら温泉街ならではの祭の風情を演出します。

【北潟祭】

北潟祭は八雲神社の夏の例大祭で、現在は７月第４週の土日に行われています。昭和３０年代までは「テンノコ（天王講）祭」と呼び、京都の祇園祭と同じ７月１４日・１５日に実施されていました。

祭前日は、「愛の神の井戸」の水の汲み換えとお祓いを行います。この清水を使い神前にお供えするウルチ米を蒸したり、野菜を洗います。また、神輿が舞、小休止するところを御旅所といい、その場所を「テンナシキ（天王屋敷）」と呼びますが、そこに幟旗をたて、砂盛を作ります。夜 11 時過ぎに「テンノコマイッテクンナイノウ」と触れ廻り、12 時から夜宮となります。夜宮では神事が行われ、その後に「オンブクサマ（御供物様）」と呼ばれる神饌（ウルチ米を蒸したもの）が配られます。

祭は初日に東祭、二日目に西祭が実施され、それぞれ東地区、西地区を神輿が巡行します。その時は、子供たちが務める旗行列が「ヤーガレ、ヤーガレ」「オオチンサイ」と掛け声をかけながら先導します。

初日は安楽寺から出発し、八雲神社でご神体を神輿に移し、東地区の各御旅所を廻った後、安楽寺に戻り、本堂に神輿を安置します。二日目も安楽寺を出発し、西地区の各御旅所を廻った後、八雲神社へ行き、ご神体を神社本殿にお戻しし、神輿は安楽寺へ戻り、翌年まで本堂に安置されます。　北潟祭は神仏習合の名残がある、貴重な御祭です。

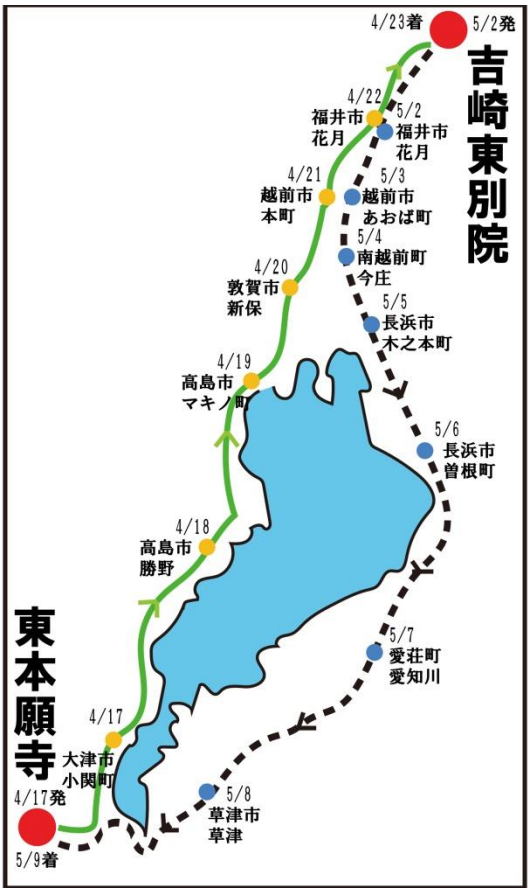
【蓮如忌と御影道中】

一般的に蓮如忌は、蓮如上人が亡くなられた 3 月 25 日に、上人の遺徳を偲んで、縁の寺院を中心に厳修されているものをいいます。

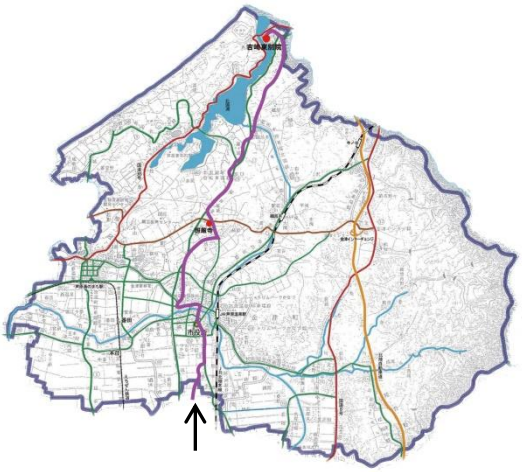
吉崎御山では「蓮如御手植えの松」の枝に名号軸をかけ、行ったのが始まりと言われ、江戸時代には東本願寺の教如上人から蓮如上人の御影（蓮如上人のお姿が描かれた掛軸）を授かり、それを掛けて行うようになりました。現在では、吉崎東別院に御影が掛けられ、期間中（4 月 23 日～5 月 2 日）毎日、法要と法話が行われます。

蓮如上人御影道中は、蓮如忌に合わせて、御影が京都の東本願寺と吉崎別院の間を往復するもので、行きを御下向道中、帰りを御上洛道中ともいいます。始まりは教如上人から授かった御影を本山に返納した享保六年(1721)からとされていますが、諸説あります。

蓮如上人の御影は、お櫃と呼ばれる箱に納められ、朱色の毛氈でおおい、さらに御輿に納め、御輿車に乗せられて、行きは 7 日間（4 月 17 日～4 月 23 日）で約 240 キロを、帰りは 8 日間(5 月 2 日～5 月 9 日)で約 280 キロを、約 10 名の供奉人と歩いて進みます。福井県内の門徒の間では、蓮如上人を敬愛と親しみを込めて「レンニョサン」と呼んでいます。約 300 年間、現在まで連綿と続けられてきたこの行事から、今なお続くレンニョサンへの敬愛が感じられます。



御影道中の行程



御影道中の市内のルート

【岩崎観音祭】

吉崎御山の麓、岩崎に岩室があり、そこに如意輪観音が安置されています。これは、江戸時代の末、海難が続いたので、船頭衆が集まり、対策を相談し、石仏を作りお祀りしてはとの話が持ち上がりました。その夜、ある船頭のもとに女性が現れて、「私は蓮如の母です。観音様をおまつりされるなら、石山寺の観音様を安置してください」と告げられました。この船頭がほかの船頭にお告げのことを話したところ、

「我も我も」と皆同じお告げがあったとのことでした。そこで、石屋を石山寺へ派遣し、そっくりな観音様を作り安置しました。そうしたところ海難さわぎもなくなったので、海運を営む人々はその近くにいくつも石仏を安置しお祀りしました。

同所は石窟で、他にも船玉宮や文殊菩薩の石仏等があることから、岩屋石仏群と呼ばれています。

現在、岩崎観音祭は８月１８日に行われています。

【雨乞祭】

降雨を願って行われる儀式の総称で、アメヨビ（雨呼び)、アマギトウ（雨祈祷)、アメマツリ（雨祭）などともいわれます。祭の形態としては村人が山または神社に篭って祈願したり、作り物の竜や仏像を水辺に遷してお祈りするなどがあり、地域により様々です。他の祭と違うのは、一つの雨乞儀礼で効果が無かった場合、他の儀礼を重ねて行なうことがあるところです。

　あわら市内でも、雨乞祭が行われているところがあります。一つは御簾尾地区で「水道祭」と呼ばれ、毎年 6 月 15 日に行われています。

地区内にある石造の不動明王の前で長老がお経を上げ、その後に皆でお酒をいただきます。昔から水不足で悩むことが多かったことから行われました。もう一つが滝地区で、地区内にある宮山に雨乞堂があり、毎年 6 月 17 日に例祭が行われています。堂内には不動明王、その両脇立に金迦羅、勢多迦、更に八大龍王(和修吉と娑迦羅、優鉢羅と摩那斯、阿那婆達陀と徳叉迦、跋難陀と難陀が組になっている)の石仏が納められています。これらの石仏は、享保十二年(1727)に日照があり、宮山で雨乞をしたところ、大雨が降ったのでその記念として奉納されたものです。御簾尾地区、滝地区両方とも不動明王にお祈りをしており、その由来はわかっていません。県内では水の出るところに、不動明王を祀る信仰が見られ、それが転じて不動明王に雨乞をしたのかもしれません。

9-1　滝の雨乞堂

9-2　滝の雨乞堂例祭

9-3滝の雨乞堂例祭のお供え

9-4　滝の雨乞堂の八大竜王

9-5　滝の雨乞堂の不動明王

11　御簾尾の不動明王

【火伏祭】

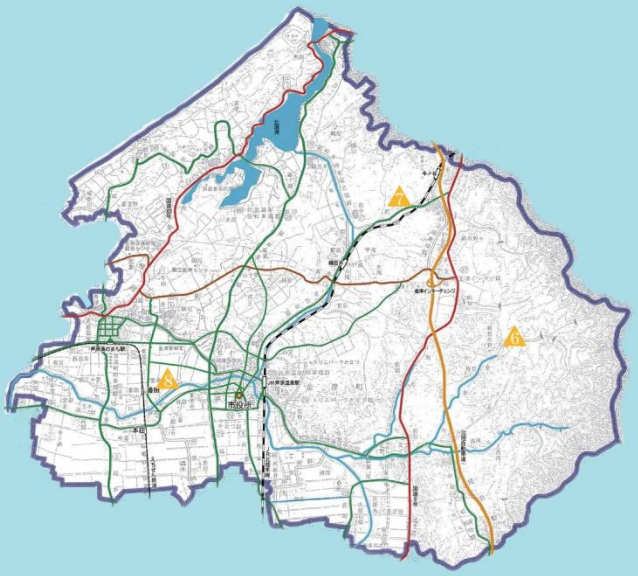
火の災厄を避けることを祈る祭で、火除せ、火除けなどともいわれます。火伏せに霊験のある神さまを祀ることころもあり、それらでは秋葉神社、愛宕神社、古峰神社等が代表的です。

あわら市内ではフェーン現象の影響で、大きな火災が起きやすく、そのような火災が起こった地域で、発生日に火伏祭が行われている事例が多く見受けられます。

『剱岳村誌』によると、鎌谷区は3月3日、東山区は3月15日、後山区は4月26日、権世区は5月3日、権世市野々は6月13日と剱岳地区の大半で火伏祭が行われています。裏を返すと、それだけ火事が多く起きていた証でもあります。

また、重義地区では大正十五年に神社が火事により焼失したことから、毎年5月18日に火祭を行っています。お供えをし、神主にお祓いをしていただくことで、地区が再び火の災厄にあわないようにしています。

重義地区　火祭のお供え



【地蔵盆】

8月23日～24日にかけて行われている、地蔵尊をまつる行事で、地蔵祭とも呼ばれています。京都市を中心に近畿地方で盛んに行われており、曲亭馬琴（1791～1848）の『羇旅漫録』の享和二年（1802）の項に「京の町々地蔵祭りあり」という記述があることから、すくなくても江戸時代には行われていたことがわかります。

行事としては六地蔵など、地区にある地蔵を廻り、死者の供養、無病息災、厄除けなどを祈るなどしていました。他に子供たちは、地区内の入口や辻に安置された延命地蔵尊や子安地蔵尊などの前に集まり、お祈りなどをした後に供物のお菓子や果物を貰って楽しいひと時を過ごします。

あわら市内にも多数の地区で地蔵盆が行われています。祭としては子供たちが集まり、地区の地蔵尊にお祈りしてお菓子などを貰って楽しむのが多いようです。また、近年は少子化などの影響で、子供が集まらないので、大人だけでお祈りを捧げたり、地区の地蔵尊を集落センターなどに集め、1ヶ所でお祈りをして済ませるところなどもあります。

会　　期：7月2日（火）～9月1日（日）
開館時間：9：30～18：00
（最終入館は17：30）
休 館 日：毎週月曜日、第四木曜日
（その日が祝日の場合はその翌日）
お問合せ：電話：0776－73－5158
e-mail maibun@city.awara.lg.jp

令和元年度夏季企画展関連講座

「金津祭と山・鉾・屋台行事について」

講師：川波　久志　氏
（福井県立歴史博物館　学芸員）
日程：8月25日（日）13：30～
場所：市民文化研修センター　大ホール
（金津本陣 IKOSSA　3階）
対象：一般50人（要事前申込、無料）